

【資 料】

ヒグマ胃内容物の検査時に検出された
シカシラミバエ *Lipoptena fortisetosa*

益 桃子 浅川満彦

酪農学園大学獣医学群

ヒグマの胃内容物からニホンジカの外部寄生虫がほぼ完全な状態で検出された事例に遭遇した。剖検時などにおける参考事例として、会員の皆さんと情報共有をしたい。

2018年9月29日、北海道島牧村にて有害捕獲されたヒグマの胃が内容物検査のため、道総研環境科学研究センターに送付された。翌年3月に食性検査をすると、図1のような昆虫が1個体採集されたので、95%エタノール液で固定・保存した。

外観から双翅目シラミバエ科シカシラミバエ属 *Lipoptena*であった。国内ではニッポンシカシラミバエ *L. japonica*、ヒメシカシラミバエ *L. fortisetosa*およびクロシカシラミバエ *L. sikae*が既報告種である^[1-4]。頭・胸部の長さが1.4 mmであったこと、中胸背板側方の剛毛が14本であったこと、小楯板の剛毛が3対であったこと、肩棘毛が3対であったこと（以上、図2）などから、ヒメシカシラミバエと同定した。

今回、胃からヒメシカシラミバエが検出されたヒグマは、トラップを用いて捕獲されたが、その誘因用の餌としてニホンジカの皮膚を含めた死体が用いられた。おそらく、その餌として用いられたシカに外部寄生していたものが、ヒグマに摂食され、今回検出されたものと考えられる。

もし、胃内容検査でこのような寄生虫が検出された場合、死亡する直前まで捕食をしていた餌動物種の特定にこのような寄生虫の種を手掛かりとすると判断を誤る可能性もある。慎重に判断をしたい。

謝 辞

標本使用のご許可を頂いた道総研環境・地質研究本部環境科学研究センターおよび当該標本に関し契約書作成をして頂いた本学研究支援課の各位に深謝する。



図1. ヒグマ胃内容物から得られたヒメシカシラミバエ *L. fortisetosa*の雌。

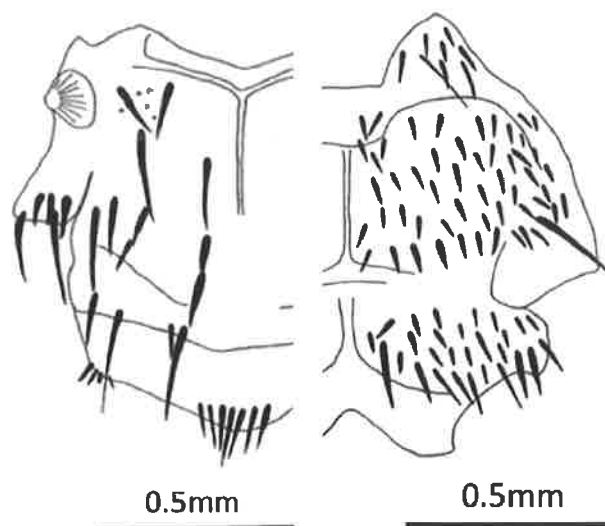


図2. 得られたヒメシカシラミバエ胸部背側（左）と腹側（右）。

引用文献

- [1] Maa TC : A synopsis of the *Lipopteninae* (Diptera: Hippoboscidae), J Med Entomol, 2, 233-248 (1965)
- [2] Maa TC : A synopsis of Diptera Pupipara of Japan, Pacific Insects, 9, 727-760 (1967)
- [3] 福本真一郎、譽田 顕、新山雅美、佐々木 均、奥田敏男、茂木幹義、高橋健一：エゾシカから検出されたシカシラミバエ *Lipoptena fortisetosa* Maa, 1965 (Diptera : Hippoboscidae)、衛生動物、51、227-230 (2000)
- [4] Mogi M : A new species of *Lipoptena* (Diptera, Hippoboscidae) from the Japanese deer, Konchu, 43, 387-392 (1975)